

岩手大学、岩手県立大学から講師をお迎えし、進路講演会を実施しました。

- ①「社会学で何を学べるのか？」岩手大学 樋口 くみ子先生
- ②「教育学入門ー2030年を見据えた学びの羅針盤ー」岩手大学 本山 敬祐先生
- ③「低炭素社会における燃料電池の役割について」岩手大学 竹口 竜弥先生
- ④「風力エネルギーの利活用」岩手大学 小野寺 英輝先生
- ⑤「『凍る・凍らない』が創出する?の新たな未来とフードロス zero」岩手大学 小出 章二先生
- ⑥「看護学入門」岩手県立大学 三浦 奈都子先生
- ⑦「法律・行政と総合政策」岩手県立大学 窪 幸治先生
- ⑧「社会システムデザイン」岩手県立大学 小倉 加奈代先生

知的好奇心を刺激する内容の講演に、生徒たちは学問の可能性と楽しさを知ることができました。

講師の先生方、お忙しい中を花巻北高校で講演をしていただき、大変ありがとうございました。

生徒のアンケートより



①社会からの役割・期待に沿って、役割・演技を行っているという話の中で、自分自身、家族と話すとときと友達と話すとときは違う自分のような気もしていて、その話にすごく納得できた。

②「与えられたものを消化するだけでは問題を解決できなくなる時代になっている」という言葉が印象に残った。これからは自分で考え、社会を変える方法を探していかなければならないということがわかった。

③現在の水素などによる燃料電池の現状や、政治的にこれからのエネルギーがどうなっていくのか、といったことなどを知ることができました。



④風力発電の現在の特徴や課題を聞いて、再生可能エネルギーの現状を知り、日本の発電についても知ることができた。



⑤今まで見てきたフードロスの主な対策がすべて「食べた後（食べ残し）をどうするか」ということばかりだったのですが、今回は食べる前の対策について聞いて、とても面白かったです。



⑥看護職は医療において知識で患者さんの健康をサポートするだけではなく、心まで看るということを学んだ。



⑦初めて聞く言葉もたくさん出てきたけど、自分が今までに習った知識やニュースなどで見聞きした情報とリンクする部分もあって面白かった。



⑧人間は感情や思考の癖、不合理性に行動が左右されることから、そのことを考慮に入れて人間の行動をコントロールする行動経済学という学問が気になり、事例を調べてみたいと思った。